

平成20年10月20日

筑波大学

植物トマト研究を中核とした「国際ジョイントラボ」の開設について

近年、ゲノム情報基盤の構築が学術研究の推進から産業育成までの広い範囲で有用であることが示されており、応用研究目的に即した植物ゲノム研究の推進の必要性が国際的にとなえられています。トマト（ナス科）はこの研究対象の一つとして世界的に大きな注目を集めています。筑波大学遺伝子実験センターは、文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクトにおいて我が国におけるトマトリソース研究の中核拠点として位置づけられており、国際的にも優れた教育研究活動を進めております。

この実績に基づき、本学遺伝子実験センター内にフランス国立農業研究所（INRA）の国際ジョイントラボを開設し、同研究所の研究者やフランスの学生が常駐し、本学の教員及び学生との研究交流や国際的に活躍する人材育成を行うことになりました。さらに、今年度中には、フランス国立農業研究所（ボルドー研究センター：INRA-Bordeaux）にも筑波大学の国際ジョイントラボが開設され、研究交流・人材交流を図っていく予定です。（図1参照）

フランス・ボルドーに設置するジョイントラボは、筑波大学にとっても先進国に設置する初めての本格的な教育研究拠点となり、本学の国際的な発展の重要な起点になると期待しています。

このジョイントラボを中核としたトマトの国際的な研究協力は、来年度以降、アメリカ・コーネル大学との間でも同様の国際ジョイントラボを互いに開設する協議を進めており、国内の研究協力機関を含め、ナス科ゲノム研究国際コンソーシアムを構築していきます。さらに、将来的にはより広い生命環境科学分野へと展開していく予定です。（図2参照）

なお、「国際ジョイントラボ」オープニングセレモニーは、10月20日から23日にかけて本学で開催される日仏植物科学会議に先立ち行われるものです。

発表者：筑波大学遺伝子実験センター長 江面 浩

植物トマト研究を中核としたジョイントラボラトリーの相互開設

トマト研究国内拠点：国立大学法人筑波大学

筑波大学
遺伝子実験センター内
フランス国立農業研究所ジョイントラボラトリー

学术交流協定
(H19年4月締結済)
共同研究
(H19-20採択)

ジョイントラボラトリー間の
教員、若手研究員及び
大学院生の派遣・受入
研究施設の相互提供

フランス国立農業研究所
ボルドー研究センター内
筑波大学ジョイントラボラトリー

海外のトマト研究拠点：フランス国立農業研究所

次世代モデル植物トマトを中核とする国際連携融合拠点の構築

